

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, August, 2009

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

○8月の状況 (佐藤)

☆ 222P/2004 X1 = 2009 MB<sub>9</sub> (LINEAR)

8月3日 19:49、東京都大田区の佐藤英貴氏から彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML) へ「yahoo comet-ml にて Robert McNaught 氏が、地球接近小惑星 2009 MB<sub>9</sub> に彗星活動がみられることを指摘していたので、さっそく Moorook で観測を試みています。まだ FTP サーバーにアップされていないので写っているかどうかもわかりませんが... この天体の軌道は P/2004 X1 とほぼ同じです。同一天体なのでしょうかね?」とのコメントがあった。

同日 20:24、筆者から佐藤英貴氏へ P/2004 X1 と 2009 MB<sub>9</sub> の 92 個の連結軌道要素を送り、その後 20:48、oaa-comet ML に「リンクできますが、Delta T = -2.25 days となります」とコメントをつけて 2004 年 12 月 7 日から 2009 年 8 月 2 日までの 135 個の連結軌道要素を知らせた。

同日 22:03、埼玉県上尾市の門田健一氏から oaa-comet ML に「おおっ！それは凄いです。同定の指摘について、中央局へ連絡しておくといいでしょう。>英貴さん…」とのアドバイスがあった。

8月4日 02:06、佐藤英貴氏から oaa-comet ML に「連結軌道の計算やアドバイスをいただき、ありがとうございます。2009 MB<sub>9</sub> と P/2004 X1 の同定の可能性について MPC に報告しました。残念ながら D90 での観測は地平高度 16 度以下という低空で行ったので 2009 MB<sub>9</sub> は写りませんでした。…」とコメントがあった。

これに先立って同日 00:51、天文電報中央局から CBET 1893 に McNaught の報告により 2009 MB<sub>9</sub> が彗星状であったこと、佐藤英貴氏が P/2004 X1 の出現であると指摘したことが知らされた。

8月4日、oaa-comet ML メンバーから佐藤英貴氏へ祝福のメッセージがあった。門田健一氏は「おめでとうございます！ P/2004 X1 の検出を試みられていたことが、同定として実を結びましたね。観測の習慣が必然性を

生んだ結果と言えるでしょう。観測に必要なものは、空の良さではなく、機材でもなく、どんな時でも休まない気力と、彗星のことを奥底まで知るセンスだと思います。継続は力なり、これからも頑張ってください」とのメッセージがあった。

☆ C/2006 W3 (Christensen) (写真 a)

8月17日13:09、千葉県船橋市の張替憲氏から oaa-comet ML に「九十九里海岸での眼視観測です。昨年夏にまして、今夏も際限なく悪天候が続き、約2ヶ月半ぶりの観測となりました。…透明度がよく小粒ながら明るいのに驚きました。中央に集光があり北西-南東にコマの拡がりがあります。22P/Kopff は雲に阻まれ観測できませんでした」とのコメントと8月16日の観測報告があった。さらに24日12:53、同氏から「群馬県北軽井沢、知人観測所での眼視観測です。…雲が絶えず流れるなか、途中何度も観測が中断しました。比較星は TYC1622-696 (8.2m) と TYC1621-916 (9.6m) でそのほぼ中間の光度でした」と報告され31日にもコメントと観測報告があった。

31日02:21、熊本県阿蘇郡の宇都宮章吾氏から oaa-comet ML に「今年の夏は、天気が悪くてほとんど晴れることがありませんでしたが、やっと観測、掃天ができるようになりました。26日は、13度まで気温が下がり、すばらしい透明度の空でした。C/2006 W3 は、少しずつ暗くなり、集光も弱くなりました。22P は、拡散状で見えています」とのコメントと8月17日、25日と26日の観測報告があった。

● 眼視観測報告

C/2006 W3 (Christensen)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Aug.	16.47	9.0	1.6'	6	-	-	4/5	4/5	49×32-cmL	張替憲
	17.52	8.3	3	6	-	-	3/5	4/5	16×7-cmB	宇都宮章吾
	22.46	8.9	1.9	6	-	-	3/5	2/5	49×32-cmL	張替憲
	24.55	9.1	2.3	6	-	-	5/5	5/5	66×25-cmL	佐藤裕久
	24.56	8.7	3	6	-	-	5/5	5/5	25×10-cmB	佐藤裕久
	24.72	9.6	2.3	6/	-	-	4/5	-	42×20-cmL	永島和郎
	25.75	8.8	3	5	-	-	5/5	4/5	16×7-cmB	宇都宮章吾
	26.76	9.0	3	4	-	-	3/5	4/5	16×7-cmB	宇都宮章吾

22P/Kopff (写真 b)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Aug.	17.74	10.2	3'	3	-	-	3/5	4/5	25×15-cmB	宇都宮章吾
	24.57	11.5	1.4	2	-	-	4/5	4/5	66×25-cmL	佐藤裕久

## 22P/Kopff (cont.)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Aug. 24.76		11.1	1.3'	5/	-	-	4/5	-	79×30-cmL	永島和郎
	25.77	10.3	3	3	-	-	5/5	4/5	25×15-cmB	宇都宮章吾
	26.77	10.3	3	3	-	-	3/5	4/5	25×15-cmB	宇都宮章吾
	28.71	10.7	3.0	3	-	-	3/5	3/5	49×32-cmL	張替憲

## 217P/LINEAR

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Aug. 24.79		10.7	1.0'	6	1.2'	235°	4/5	-	79×30-cmL	永島和郎

## ☆ P/2009 Q1 (Hill)

8月27.40日 UT、R. E. Hill は、Catalina の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で明確な集光のない 12"-15" の広いコマと p. a. 250° に約 20" の拡散した尾がある 17.9 等の彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、L. Buzzi (Varese, イタリア, 0.60-m 反射)、佐藤英貴氏 (東京都大田区, Mayhill 近郊リモート 25-cm 反射使用、30" の拡散したコマと 1'.6 の幅広いあり) と門田健一氏 (埼玉県上尾市、25-cm 反射、0'.4 の拡散したコマと西に延びた尾の気配がある) ら多数の CCD 位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9067, 2009 Aug. 29)。

この彗星については、8月28日 19:01、大田区の佐藤英貴氏から「Catalina Sky Survey (703) で発見され、NEOCP に載っている 9Q18301 は非常に拡散した彗星です。…」との報告があり、同日 20:54、筆者より「彗星状でしたか。次の軌道のように短周期彗星の可能性ががあります」と放物線軌道要素と 13 年ほどの周期の楕円軌道要素を報告した。

29日 03:06、上尾市の門田健一氏から「観測速報、ありがとうございます。運良く晴れたので、狙ってみました。確かに拡散状で彗星に見えます。西に広がった尾らしきものが見えますが、微光彗星なので S/N が低くはつきりしません」とのコメントと観測報告があった。

IAUC の発行まで、oaa-comet ML で活発な意見交換が行われていた。

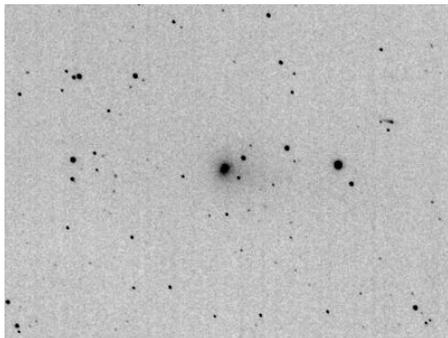
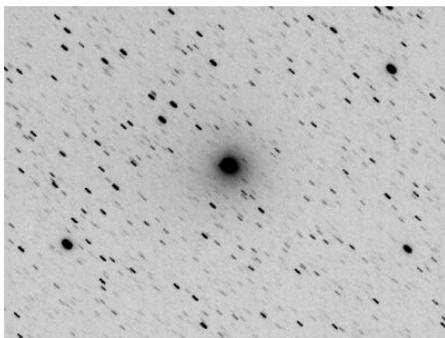
## ○その他 8 月に発見・検出された彗星

☆ C/2009 P1 (Garradd) 8月13.77日 UT、G. J. Garradd は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から丸い 15" のコマのある 17.5 等の彗星を発見した。NEO Confirmation Page (NEOCP) に掲載後、El Condor 天文台 (Cordoba, 0.20-m f/3.6 Schmidt-Cassegrain 望遠鏡) など 2 つの天文台によって観測された (IAUC 9062, 2009 Aug. 17)。

☆ C/2009 P2 (Boattini) 8月15.44日 UT、A. Boattini は、Catalina

の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から 8" のコマのある尾のない 19.2 等の彗星を発見した。NEOCP に掲載後、Birtwhistle (Great Shefford, Berkshire, 英国, 0.40-m 反射) ら多数の CCD 位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9063, 2009 Aug. 18)。

- ☆ 223P/2002 S1 = 2009 L18 (Skiff) 6月15.6日 UT、G. Sosterо, E. Guido, P. Camilleri と E. Prosperi は、Skylive-Grove Creek 天文台 (Trunkey 近郊, NSW, オーストラリア) の 0.35-m f/7 反射のリモートによる画像から P/2002 S1 を検出し、8月18.6日 UT に確認した。検出時の光度は 20.0 等~20.6 等で恒星状であった (IAUC 9066, 2009 Aug. 22)。
- ☆ 224P/2003 XD<sub>10</sub> = 2009 Q2 (LINEAR-NEAT) 8月27.39日 UT、J. V. Scotti (JPL) は、Kitt Peak の Spacewatch 1.8-m f/2.7 反射で得た CCD 画像から 21.5 等の P/2003 XD<sub>10</sub> を検出した。MPC 59598 の予報に対する修正値は  $\Delta(T) = -0.10$  day であった (IAUC 9067, 2009 Aug. 29)。
- ☆ 225P/2002 T1 = 2009 Q3 (LINEAR) 8月28.49日 UT、J. V. Scotti (JPL) は、Kitt Peak の Spacewatch 1.8-m f/2.7 反射で得た CCD 画像から 21.1 等の P/2002 T1 を検出した。イメージは"ソフト"で明瞭なコマまたは尾はなかった。MPC 56804 の予報に対する修正値は  $\Delta(T) = +0.04$  day であった (IAUC 9068, 2009 Aug. 29)。
- ☆ C/2009 Q4 (Boattini) 8月26.47日 UT、A. Boattini は、Catalina の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から約 8" のコマ (p. a. 250° に少し細長い) のある 18.9 等の彗星を発見した。MPC の NEOCP に掲載後、CCD 位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9069, 2009 Aug. 31)。



(写真 a) C/2006 W3 (Christensen) 2009, 08, 17  
21h10.0m-20.0m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏

(写真 b) 22P/Kopff 2009, 08, 15  
0h00.0m-10.0m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏